

21 主婦の家事労働についての実態調査（第3報）

—仙台市における家庭用器具機械の利用状態—

宮城学院女子大 横山 シヅ
尚絅女学院短大 阿部 淑子
東北大教育 大泉 ふさ

1 最近衣料品食料品共に既製品が多くなりこれらの社会的生産によって家事労働の変化が行われているが、一方家具什器特に電気器具の生産購入が多くなり主婦の家事労働の節減と生活の充実が行われている。これは家庭器具機械の利用状態について先に東京都について調査し報告したが、今回は仙台市について調査を行いこれらの利用状態の地域的な特徴の把握を通して主婦の家事労働の変化の方向を見ようとしたものである。

2 昭和33年11月仙台市内の四つの小学校に依頼してその家庭の主婦について調査した。回答数は434であった。

3 調査した器具機械類を所有者の多い順にあげるとミシン・魔法瓶・電気洗濯機・手編機・冷蔵庫・電気炊飯器・ジャー・電気ストーブ・ガスストーブ・電気冷蔵庫・電気掃除機・タイムスイッチ・電気ミシンの13種である。東京に比較すると仙台は1~5%の差はあるが大体同じ順序で、家庭に取り入れられる状件や段階については中央も地方も同様である。一般に所有率の少い点から地方の後進性が見られるがミシン・電気炊飯器は約4%多い。それらの考察を通して家庭内の仕事は今後社会化が更に強化される傾向をもつものと家庭内で器具利用による合理化に向うものとに分けて見ることが出来る。更に個々の器具類と家事労働との関係や余暇利用の状態との関係をも追及してみた。